

アジア太平洋地域で観察される宗教意識の独自性～多様な文化形態の考察に向けて

二階堂晃祐 調査科学研究センター 特任研究員

概要：当センターで2009年から2014年に渡り実施した「アジア・太平洋価値観国際比較調査」は日本、米国、中国文化圏4地点（北京、上海、香港、台湾）、韓国、シンガポール、オーストラリア、インド、ベトナムの11か国/地点を対象とした。筆者は前身プロジェクトである環太平洋価値観国際比較調査の途中から、調査設計、サンプリングや現地調査との調整等で作業を担った。一方調査データの解析の観点からは、主に宗教に関する変数に着目してきた。宗教は人類史を考える上で不可欠な要素の一つであり、ほぼ全ての文化でその生活様式や価値観、政治や経済行動への姿勢等と密接な関係があるの言うまでもない。当センターの調査では宗教に直接関連する変数は全体の中の割合、の観点からはさほど多いわけではなかったがそれでもかなり充実しており、他国で行われている類似の大規模社会調査プロジェクトと比べても（WVS や米国のGSS等）遜色ない事をまずは記しておきたい。関連する変数で観察される回答分布からは、対象各国における宗教の現代社会での位置づけや、日常生活や価値観の違いが垣間見えてくる。ここでは、いくつかの国・地域において他と比べ、目立った独自性が宗教に関して見られた項目についてこれまでの成果をまとめてみたい。

表1：信仰と「宗教的な心」について各国の比較（%値、ただし「宗教的な心が大切か」、に「分からない」は省いたため合計はどの地点でも100%より多少少ない）

信仰の有無	はい		いいえ	
	はい	いいえ	はい	いいえ
宗教的な心大切				
日本2010	25.0	0.7	45.8	18.2
アメリカ2010	69.5	6.1	6.9	12.3
北京2011	11.6	1.9	23.6	54.4
上海2011	19.7	2.8	20.0	34.9
台湾2011	67.3	5.8	15.8	7.1
香港2011	27.2	1.8	28.2	25.0
韓国2012	40.4	2.7	22.6	29.2
豪州2012	40.1	12.5	11.7	32.2
シンガポール2012	71.4	6.9	6.2	12.4
インド2014	89.9	9.7	22.3	76.7
ベトナム2014	72.3	23.9	27.6	66.3

中国では他国に比べ、宗教を持つ割合自体は目立って低い。ただし他国にない特徴として、若い世代の方が宗教的な心に好意的である。

表2：中国及び中華圏諸国における年齢別信仰の有無

	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70+
北京2006	18.3	13.3	19.7	16.9	14.2	15.6	13	12.8	4.5	11.5	9.9
上海2006	18.9	18.6	27.7	19.4	27.4	28	30.8	32.3	38.2	23.8	27.1
台湾2006	37	60	66.2	59.6	65.1	70.1	71.4	76.3	71.4	81.3	77.4
香港2006	25.7	34	28.4	34.3	35.8	44.2	41.2	46.7	39.4	42.9	53.9
シンガポール2007	75.5	66.4	77.2	80.3	78.3	82.8	88.3	82.9	78.6	80	N/A

表3：中国及び中華圏諸国における、年齢別「宗教的な心は大事か」

	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70+
北京2006	50.4	35.9	55.3	50.6	43.4	26.7	35.9	33.3	31.8	34.5	33.3
上海2006	40	37.3	31.9	30.6	33.7	30.2	29.4	29	34.2	26.2	37.6
台湾2006	69.6	71.7	73.5	82.7	79.1	76.6	83.9	78.9	81	93.8	83.9
香港2006	62.2	52	52.2	70.5	73.4	69	59.8	63.3	42.4	57.1	65.8
シンガポール2007	70.9	67.3	73.2	78.1	76.2	75	76.7	76.8	71.4	80	74.4

図1：アジア・太平洋調査で見る現代インドの宗教事情の概要

日本では宗教を持っている人の割合は低いが、「宗教的な心は大切」とする人が多い。この組み合わせが主流なのは、一つの文化的な特異性とと考えられる。

インドは宗教意識の面でかなり特異な回答分布を示しているのが興味深い。単に信仰形態というより、もっと日常生活に根付いているため自明の重要性を感じるのかもしれない。

信仰心自体は篤い。94.9%は何等かの信仰がある、と回答している。（次点はシンガポールの80.4%）

宗教団体への信頼は45.6%と高い。（次点はベトナムの25.8%）

宗教対立について、「自身の宗教を広める」か、「自身の宗教を理解させる」の割合が高い。

宗教を持っているが、「宗教的な心は大切でない」とする割合が比較的高い。（この数値は2008年の環太平洋価値観調査では16.7%とより大きかった。）

アメリカとオーストラリアは歴史的背景、文化的な基盤が以て異なるが宗教に関しては全く異なる意識が伺える。アメリカでは宗教がとても大事とする割合(37.5%)がインドと並び際立って高く、信仰を持つ割合、神を信じる割合、死後の世界や魂の存在を信じる割合も高いが、オーストラリアはいずれの変数についても他国と比較して平均的な数値を示している。